

2017年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所

第63代理事長 井口 貴博

未来への挑戦！！

～挑戦なくして成功なし！我々の行動が未来を変える！～

はじめに

戦後の荒廃した時代から、経済的な発展を遂げ、物質的には不自由のない生活を送る事ができる時代へと辿り着いた日本。その背景には、「世のため人のため」という利他の心を持ち、日本再興へ取り組む精神的豊かさがあったからであると考えます。しかしながら現在では、物質的な豊かさを幸せの基準とし、精神的な豊かさが失われつつあるように感じます。いつの時代においても、人は物質的にも精神的にも豊かで、生き生きと暮らせる国であってほしいと願うでしょう。国を支えるのは地域であり、地域を支えるのは人です。自分の時間を「公」に向けて使う事を第一とし、「個」のために使うのは第二とする。そのような人が溢れる社会こそが「明るい豊かな社会」の実現へと繋がっていくと考えます。

2027年、中津川はリニア開業を迎え、岐阜の東の玄関口として多くの人や地域との交流を活発にし、まちに賑わいを創出するために、心豊かな人づくりを土台とするまちづくりを進めていく必要があると考えます。我々JAYCEEは、岐阜全体の発展を視野にいれた未来の中津川を創造し、現代社会から失われつつある心と呼び覚ますべく挑戦していく1年として参ります。

まちづくりは人づくりといわれるように、地域に住まう人の成長がなければ地域社会の発展もありません。我々JAYCEEは、地域社会を担う使命感を持って、「世のため人のため」の行動を通し、人やまちについて考えられる人づくりに努めていかななくてはなりません。そうした行動がまちの活性化に繋がり、すべての人の幸せに繋がります。メンバー一人ひとりの本気になって取り組む姿勢が人を動かし、地域を、国を、世界を変えるという気概を持って行動して参りましょう。

交創都市中津川に向けて

2027年リニア開業に向けた中津川市の取り組みとして中津川市総合計画があります。将来都市像の実現に向け、「住んで良かった」「住んでみたい」まちを目指し、“かがやく人々 やすらげる自然 活気あふれる 中津川”という3つの理念を掲げ、様々な取り組みが進められています。リニア開業時には、県内外から多くの人との交流が活発になります。中津川青年会議所として、2015年「交創」という“まちづくりビジョン”を提言しました。我々青年会議所メンバーは、岐阜の東の玄関口にふさわしいまちとして、リニアという人や地域を結ぶ絶好のパイプを使い、市内各地域、県内外への波及効果も考え、交流を活発にし、まちの活性化に繋げていくために行動する必要があると考えます。また、この千載一遇のチャンスを活かすために、市民と共に胸がおどるようなまちの姿を思い描き、真にまちの未来を考えられる人づくりに努めていく必要があると考えます。そのために、市民がリニア開業後のまちの姿を具体的にイメージできる運動発信を行う必要があり、「こんなまちにしたい」という希望を膨らま

せていく事が必要と考えます。

我々は、2027年に向け、多くの人や地域の交流から市外、県外、やがて世界へ通用する新たなまちの価値を創出するために、青年だからこそ自身が輝きを放ち、愛するふるさと中津川に活気を与え続けられるよう未来へ向かって挑戦する1年にして参ります。

未来を担う心豊かな青少年の育成

現在の子ども達の育つ環境は、衣食住を始めとする欲求は満たされており。しかし子ども達は、満たされた環境に対し、当たり前を意識や親や学校からすべて与えてもらえるという受け身の考えが、向上心の低下に繋がっていると考えます。また、学校教育においても良い成績を上げて官公庁や大企業に入る事を善しとして、「人としてどう生きるべきか」を学ぶ環境が置き去りにされているように感じます。心身ともに成長過程である青少年期こそ、「人としてどう生きるべきか」を学び、考え、行動する機会を与える事が必要ではないでしょうか。

青少年期に必要な事は、夢や目標を持ち、その実現に向かい努力する過程の中で成功した喜び、失敗した悔しさの繰り返しが大切と考えます。その様々な経験が、すべて身となり、社会に出てからの困難に負けない心、人への思いやり、感謝の心を持つ人としての成長に繋がり、「生きる力」に変わります。子ども達が、自らの未来に向かって挑戦し、体を張って取り組んだ実体験こそが最も貴い財産になり、今後の人生の礎となります。未来を担う子ども達に対して、心を磨く中で夢や目標を創造するきっかけを与える事が、大人としての使命であると考えます。

未来へ繋ぐ「おいでん祭」

31回目を迎える「おいでん祭」は、夏の風物詩の一つとして、子どもから大人まで様々な年代が参加し、心のよりどころとして定着して参りました。まつりの醍醐味を考えると、仲間と共に大勢の観客の前で披露する楽しさや達成感、観客を魅了する優越感ではないでしょうか。また、携わっている人の楽しそうな姿や勇壮な姿が来場者の目を奪い、感動やまた来てみたいという心が育まれると考えます。また、地域の繋がりの希薄化が進む現代においても地域の人を繋ぎ、一体感と愛着を生み、その心が郷土愛を育む一番わかりやすい取り組みがまつりではないでしょうか。

地域を繋ぐ「おいでん祭」を永続的に開催してくためには、市民が主役のまつりであり、中津川の伝統として語り継がれるまつりでなければなりません。そのために、市民がまつりに本気になって取り組める機会を提供し、毎年、「おいでん祭に参加したい!」と思える意識や「おいでん祭においでんさい!」と発信できる人づくりに努めていく事が必要と考えます。新たな10年、20年先を見据えて市民と共に創り上げる事が“誰の心にも繋がるふるさとのまつり”として今後「おいでん祭」の更なる発展に繋がると考えます。

魅力ある組織への発展

青年会議所とは、ふるさとで住み暮らす未来を担う人財が、育てていただいたふるさとへの感謝と恩返し的心を持って、人やまちのための行動を通して、自身の成長と得た知識をまちのリーダーとして、地域社会に貢献すべく活動している団体です。

我々JAYCEEは、一人ひとりがまちを背負い、会社を背負い、家族を背負っているからこそ、自

己の成長が必要ではないでしょうか。青年会議所活動において、様々な機会があり、そこに挑む事によって、「今までできなかった事ができるようになる」成長や「今まで見えなかった物が見えるようになる」成長に繋がります。また、青年会議所活動の中で「義理・人情・やせがまん」という言葉が使われます。様々な成長の機会を与えてくださり、支えていただいた人への「義理」。共に想いを語り合い、苦楽を共にする中で育まれる「人情」。義理・人情を大切にし、時には無理をする「やせがまん」。メンバーには、一人でも多くの仲間とそうした人間関係を築き、魅力ある人へと成長してほしいと心から願います。

メンバー一人ひとりが、自己の成長をまちや会社や家族のために発揮し、語れるようになった時、個の質高い魅力ある組織への発展に繋がっていくと考えます。

終わりに

稲盛和夫さんの著書『生き方』の中で『挑戦には、「ど真剣」という熱が必要なのです。これは、「自分を追い込む」という事でもあります。真正面から困難に立ち向い、自分を限界に追い込む。そういう心意気が不可能と思えた状況を打破し、創造的な成果を生み出していくのです。』と述べています。青年会議所活動において様々な困難はありますが、何事においても試練を成長の機会と捉え、「ど真剣」に向き合い、地域、会社、家族に誇れる活動をして参りましょう。

1955年から続く先輩諸兄の英知と勇気と情熱を持ち、未来を見据え様々な困難に立ち向かう挑戦心ある行動が、現在の中津川青年会議所活動を行う上での根幹である事を忘れてはいけません。未来を託された我々は、そうした先輩諸兄の想いを受け継ぎ、まちのため、市民のために未来を創造し、挑戦し続けなくてはなりません。

挑戦なくして成功なし。我々の行動が未来を変えると信じて。

<運営方針>

- ・ど真剣に取り組む J A Y C E E
- ・個々の成長の機会を促し、一体感を育む委員会運営
- ・未来へ挑戦する L O M 運営

<運動方針>

- ・夢溢れるまちへの挑戦
- ・心を磨く青少年育成
- ・未来へ市民と共に育む「おいでん祭」